

# タゲリ、オシドリ、ヨシガモ—自然は素晴らしい！

投稿日：平成28年2月23日

投稿者：石橋正彦

写真撮影：東金彦宏

2016年2月12日に人間研主催で、また18日に種田ゼミ主催で、平塚市北豊田周辺・鈴川右岸で探鳥会を実施しました。伊勢原発平塚行、平塚発伊勢原行バスで、東橋下車。参加者は12日は男性3名・女性1名、計4名、18日は男性3名、女性2名、計5名でした。12日の天候は曇りで、朝の内はずいぶん寒かったのですが、その内に温度も少し上がってきて、雨も降らず、まあ、良い鳥見の日でした。18日は快晴で絶好の鳥見日和。光線にあると鳥の羽もきれいに輝き、自然の美しさを堪能できました。

なお、12日に見ることが出来た鳥は以下の通り。

1. ドバト
2. スズメ
3. ヒヨドリ
4. コガモ
5. ダイサギ
6. コサギ
7. トビ
8. ムクドリ
9. カルガモ
10. カワラヒワ
11. ハシブトガラス
12. アオサギ
13. マガモ
14. ハクセキレイ
15. タヒバリ
16. ハシボソガラス
17. モズ
18. タゲリ
19. ケリ
20. カワセミ
21. セグロセキレイ
22. イソシギ
23. イカルチドリ
24. カワウ
25. ツグミ

参加者の一人、人間研東金さんが苦勞して写真を撮って下さったので、紹介します。



この日一番のねらい目のタゲリ。数は少なかった（計4羽）のですが、近くまで寄って行って撮影しても逃げず、ナイスショットを撮影させてくれました。きれいでかわいらしい鳥です。今回の主目的はタゲリ観察！

ケリも3羽出てくれて、川で水浴びをしている様子などを見ることが出来ましたが、写真を撮ろうとして寄って行ったら飛び去ってしまいました。（写真は他の人が撮った参考写真）



マガモ（雄）。通称“青首”と言われるカモ類の代表格。首の青色は光線の加減によって緑、紫、黒など鮮やかに変化します。マガモを改良したのがアヒル（家鴨、ついでにマガンを改良したのがガチョウ）。尾羽の一部が丸く立っているのも、北京ダックのように真っ白でもこの翅で雌雄の区別が出来ます）。



カルガモのペア。多分手前の個体が雄。カルガモは外観が雌雄ほとんど同じで識別が先ず出来ません。並んで泳いでいることが多いので、雄・雌と想定し、少し体が大きいのが雄だろうと考える次第。カルガモは自然界でもマガモと交雑種が出来ます。写真の奥にいるのは多分マガモの雌。自然界では一般にオスの方が華やかできれいです。



コガモ。左の後ろを向いているのが雄。コガモも雄はきれいで、とくに目から首にかけての緑色がきれいです。また尻の部分の黄色い羽も特徴。コガモもマガモなど他の鳥と同様メスは地味で、わずかに体側に緑色の翅を見せてコガモであることを自己主張。(右の写真は他の人が撮った参考写真。)



別々の場所で見えたカワセミ。写真の両個体とも雄。メスは下嘴が赤い。つまりおしゃれで下嘴に紅をさしているというわけ。上の写真は背中の翡翠色を誇示(!)しているところ。電線や木などに止まって下を見張り、小魚がいればダイビングしてキャッチ。下の写真は見事小魚を捕って、食べやすいように周囲に叩きつけて、頭から飲み込む瞬間。



ダイサギです。じっと写真撮影用のポーズをして、その後飛び立った瞬間。他にコサギもいましたが、ダイサギの嘴はこの時期黄色に対してコサギは黒。首の長さ、大きさなど違いは明らかです。



アオサギ。静かに休んでいるところを対岸にギャラリーが来てうるさくしたので、何事？と首を出したところ。

鈴川沿岸は葦が生えていて、なかなか散歩コースとしても良いところですが、ビニル類など上流からのゴミが多いのが難点。



イソシギ。結構せわしなく歩き回っています。気を付けていると、冬には河原でよく見かける鳥。映画『いそしぎ』（エリザベス・テイラー主演）は海岸で保護したイソシギの翅の折れた幼鳥をヒロインが手当てし、大空へ飛び立たせるエピソードが、登場人物の心情の変化を象徴していること

から来た題名だとか。



イカルチドリ。この時期シギ・チドリの仲間がとくに海岸などで良く見かけますが、川辺ではイカルチドリが一般的なようです。

18日はケリは見る事が出来なかったけれど、代わりにコガモの群れが一斉に飛び立って逃げるので、見ていると間もなくオオタカの幼鳥が登場。結局コガモを獲る事は出来なかったようでしたが、狩りの雰囲気は十分。他にホオジロ、ジョウビタキなどが12日に見る事が出来なかったけれど、18日に見る事が出来た種。また何故かダイサギ、コサギの姿がなかったです。

18日に参加した方の情報に基づき、相模原市の横浜市水道局小山貯水池に22日に行ってきました。主目的はヨシガモ、オシドリ、カンムリカイツブリ。ヨシガモは3番が貯水池内のフロートで昼寝をしていて、美しいナポレオン・ハットは少ししか見る事が出来ませんでした。オシドリは貯水池の遠いところに約30羽群れていましたが、水面を11羽で悠々と泳ぐ様子は圧巻。カンムリカイツブリはふつう単独でいるのに、ここでは7羽もいて、優雅な姿を見せていました。他にマガモ、カルガモ、ハシビロガモ、コガモ、オカヨシガモ、キンクロハジロ、オナガガモ、ヒドリガモなどの主なカモ類のオンパレード。その他にはトビ、オオバン、セグロセキレイ、カワウなど。以前は2000羽位冬になると来ていたのですが、最近では環境の変化からか、数が少なくなっています。でも、この貯水池は他ではめったに見ることが出来ないヨシガモ、オシドリ、カンムリカイツブリなどを見る事が出来る貴重な観察ポイント。

間もなく冬鳥たちも故郷に北帰行の季節。寒いところを我慢して観察すると、改めて自然の素晴らしさを実感します。探鳥会っていいですね。